

新庁舎建設事業に係る設計内容報告及び意見交換会

日 時：平成 29 年 5 月 13 日 13：30～15：30

場 所：小瀬田公民館

参加者： 住民 34 人

内 容

住民) 平成 10 年あたりですね、旧上屋久の庁舎が耐用年数が来るということで、木造を使うその時の話がありました。それで阿蘇の市役所 100 年たっているところを見に、それからできたばかりの小国ドームを見に、それから鹿児島県のところの待合室がまさしく木造で、ですから木造についてはなんら、大賛成であります。ところで屋久島は台風が多いです。あのガラスは強化ガラスになるのかどうか。雨戸というのがありませんでしたのでそれがちょっとひとつ気にかかります。あとですね、車いすの方がいちいちエレベーターまで行って、上がってそれからまた執務室に行くというような形になっているということでしたけど、車いす対応はどうなっているのかということですね。あとはその乾燥ですね。なんかあの木材が乾燥するまでの暖房とか冷房の設備は何を利用されるのか、するようになっているのかですね。昔の杉づくりの古民家がなんで今までもっているかということ、昔、囲炉裏を焚いてたからです。それで自然乾燥していつまでも永くもっていた。でそこらへん 3 つということをお願いします。

松下) はい。わかりましたありがとうございます。一応この 3 つをお答えしてからですね、先ほどの 3 つの意見交換会に入りたいと思っていますけども、すみませんガラスについて、それから車いすの対応について、それから木材はどんな風な乾燥をしているのかについてお願いします。

設計) はいではお答えします。まずガラスに関してですが、我々も計画当初からずいぶん気にしていたところで、この建物の外周については、例えば木格子を造って何か飛んできて大丈夫なようにしようかということも考えてたんですが、なかなか費用効果的に厳しいところもございましたので、強化ガラスにすることは全て対応しております。ですので、割れないというわけではありませんけれども、直ちに危険なような事にはならないことで設計上の配慮はしております。それから、車いすにつきましてなんですが、(図面を示す) エレベーターが平面計画上、ここにあります。これずいぶん遠いところにあるな、という感じになるんですが、計画としては車いすでいらっしやると、建物のいちばん近いところに車いす用の駐車場があります。この駐車場に停めていただいて、すぐ建物に入っていただいて、ここから一番近いところで総合受付がございますので、こちらにおいでいただければ、ここから先は庁舎のほうで対応いただけると思いますし、おそらく先ほどのお話しの中で、いわゆる町民生活課ですとか日常生活の中で訪れる部署というのはここに全部まとまっておりますので、まず車いすでいらっしやった方というのは、このあたりでほぼ用事が済むのかなというふうに考えております。さらに事務棟の 2 階に建設課ですとか、農林水産、あと総務、企画調整とかそういった専門的な部署がここがございますので、そういった意味ではちょっと遠くといえば遠くになってしまうんですけども、ここの 2 階にいらっしやるときにはエレベーターを使っていたきたいというような計画にしております。それから木材の乾燥についてということですが、昔の古民家などに使われていた木材は、とても太くてですね、また、木材の乾燥釜のような設備もその頃はなかったですから、建て方をして冬を越すとか、一年

おくとか、建物が建ててから乾燥させていくとかいうようなことがあったかと思います。それに対して今回といいますか、今こういった施設を造るときには、建物を建ててからそれを変形を許しながら仕上げをしていくというような工期はなかなか難しいものもございます。又一方で、基準法などの縛りなどもございまして、建物を建てる前に十分な乾燥してから建てるということで対応しております。先ほどちょっと説明しましたけれども、人工乾燥と天然乾燥とありまして、人工乾燥というのは乾燥釜に入れるので、島の外に出さないといけないという問題がありますけれども、1期で伐採した分については、1年間天然乾燥することが出来ましたので、それについては島の中でも乾燥については対応できるというふうなことで計画はしているところです。

進行) はい。ありがとうございました。

町) ちょっと補足を。先ほどの車いす対応の件でちょっと補足をさせていただきます。先ほども説明ございましたように、今回の庁舎は相談室という個別の部屋がフォーラム棟にも、事務室の中にもあります。そちらまで来ていただければ、用事のある課の職員が動く、というような対応も可能かと思えますので、そういうところをまた、今日いい意見として、職員のほうにも周知をしてみたいと思います。

住民) それはなぜかということですね、さっきの間取りの中で、福祉課が一番奥にあったんですよ。屋久島町の場合は、県から委託を受けて福祉事務所を預かっております。ですから、福祉事務所が体が悪い人とか特に来るところなんで、やはり今車いすで降りたところの近くになるべく入ってきた方がいいんじゃないかということです。

町) 冒頭ご説明申し上げましたとおり、今の現状で机に配置をしております。推進室のほうで今からもちろん機構の検討もしていきます。今現在、福祉の方が一番奥の方に配置されておりますが、皆様の御意見等聞きながら、職員の利用頻度ですかね、町民の皆様が来る頻度を考えながら機構のほうも触っていきますので、今のこの奥の方で決定ということではございません。そういう意見も参考にしながら今後、また検討していきたいと思っております。

進行) はい。ありがとうございました。はいどうぞ。

住民) 3つあるんですが…

進行) 29年度事業議会棟、事務棟について、あるいは旧庁舎の活用…

住民) その件でないと…

進行) その件を主体としておりますが、その件以外でも、もしあればどうぞ。

住民) 設計業者さんにお尋ねしたいんですが。当初、木造庁舎で造るという話ができました時に、屋久杉の地スギを使いまして、鹿児島に送って圧縮材にするんだ、ということをおもは聞いてたんですが、それは全く今回の中には入ってないように思われますが、その件についてひとつ。それからもう一点はですね、先ほどの説明の中で、外壁もすべて地スギを使ってということでしたが、ご承知のとおり屋久島は強風がものすごいと、そうしますと外壁は相当短い単位で補修をしなければいけない。そういうようなことも考えられますが、それについて防水とか、防水じゃなくてなんていうんですかね、いわゆる防腐剤です、使うんですかね。いわゆる外壁です。外壁。なんかそういうのを検討されているのか教えていただきたいと思います。

進行) はい。ありがとうございます。先ず圧縮材を使うということについて。 はい。

町) 今質問のありました圧縮材についてなんですけど、中種子町の小学校のほうで床材、圧縮材を使っているという、そういった施設がありました。庁舎、特にフローリング材的にですね、そういった圧縮という話も、アルセッドさんが決まる以前にですね、そういった検討の話は実際あったんですけど、愛知県にあるマイウッドツーという会社がその当時、特許製品という扱いで探ったんですけど、かなり高額な製品だったもんですから、ちょっと今回の庁舎にはそぐわないということで、断念した経緯があります。

設計) 外壁の話なんですけど、いくつか工夫をしているつもりです。先ず外壁がやられていくときの考え方としては、まず水がずっと壁の近くに滞留、とどまり続けるとそこから水が木を腐らせていくといったことがあるのかな、と思っているんですけども、そういった意味ではいわゆる壁の平部については、水というのは当たって濡れても下に落ちていくとか、晴れてくれば乾くといったことがあると思います。ただ板の外壁の下の方の端っこですとか、上のほうの端っこですとか、ほかの部分と接しているような場所については、水が溜まりがちになりますので、外壁を二重にしてですね、安全通気口をとって、水がそういった部分にとどまりにくいような作りをしているというのがまず一つあります。それから防腐剤というお話もございましたけれども、外壁には塗料を使います。半増膜タイプという塗料なんですけど。外壁の木に半分膜をつくって、半分は木材に浸透していくようなタイプの塗料を用います。これは我々設計の中で20年くらい実績のあるものなんですけども、屋久島ほど雨、風の激しい所で20年前にやったわけではないんですが、都城で10年前にやった建物ですとか、それからその前もあずまの山奥の寒い所ですけども、そういったところで外壁には使って試してみたりまして、そういった中では数年で腐ったりとかしているところはないといいますか、10年20年持ち続けるといったところの材料を設定しております。

町) 先ほどの圧縮材に関連してなんですけど、圧縮材というのは今回断念したんですけど、CLT材と申し上げまして、集成材をクロスに張り合わせていってですね、大きな板をつくる。そういったCLT材というのがあります。今回先進的な技術も一部取り入れるということで、それを耐力壁、構造の一部として、一部、壁材として使う計画は今回取り組んでおります。

進行) はい。ありがとうございました。それでは… はいどうぞ。

住民) 今日町長が来てなくて残念なんですけど。常にいま私、整地をしているところを見てるんですが、町長の考えがなかったのかどうなのか、町長に直に聞きたかったというのが2点くらいあります。というのが、小瀬田というのは、北西の風、あるいは愛子岳、七瀬、飛行場、そういうような状況の地域である中で、私が常に思うことはあそこの場をとおって、2階の3階建ての住宅がありますよね、あれを町長は壊す意志も何もなかったのかどうか。ということはですね、100年あるいは200年に一度しか造らない庁舎をですね、あれだけ下がって愛子岳も見えないような庁舎というのは、私たちはやっぱり母校の跡ですから、きれいに山も見えて、そして海も見えてというような状況の中で、設計もできるのかなあというような期待感も持っていたんですけど、それが全く言えば無視されているというような状況です。それとですね、今、松下先生もずっと屋久島らしさ、というようなことで、木材を利用してというような状況の中で、これだけの建物を造る中で、屋久島の特有、独自のものというのかな、まあ例えば昔の家というのは、8メートル、10メートルの丸太を使って家を造っている。私の実家は、そういう丸太を使ったままの家です。天井板はしてますけど。そういう丸太を使った丸太らしさというのが全然、これに見えていない、というのが痛感したものですから町長が直におれば、そういうことも聞きたいなあ、いうふうな思いでした。感想です。

進行) はい。ありがとうございます。感想でしたけれども。設計のほうでお話しいただけますか。町長はですね、確かに大きな材を使ってできないかという要望はありました。それは我々も覚えております。それを大分いろいろ検討した結果、こういうふうになったんですけども、一応、町長からその点は大分いろいろ言われて検討したというのは事実でございます。先ほどの建物は、愛子岳が見えるようにしてほしかったという話ですね。あるいは海も見えるように。まあそれはどうですかね。

設計) それではすみません。設計の立場からちょっとお話しさせてください。我々としては条件の中でやってきた設計の中で、どれだけ愛子岳ですとかそういった山並みですとか、それから前面にあります、まあ飛行場越しですけど海が見えるとか。そういったものをどういう配慮ができるかなということは考えて参りました。その中で、このパースには3階建ては入ってないんですかね。この敷地の特性ということを考える中では、あまり高いものを建てるのは良くないだろうということがまずありまして、というのはなるべく低く、まあ建てられないということもありますけれど、それだけではなくてなるべく低く抑えて、景色の中に納まるようにしたいということは考えておりました。この建物の中でおっしゃる通り愛子岳が見えてくる場所というのは、事務棟の2階からということになります。窓口棟からいってですね、奥の方にある階段を登っていきますと、正面に大きな窓がありましてそこから向こう側が、山が見えてくるようになるはずなんですけど、そういったところで、あまりいつも見えているという形にはどうしても、建てこんでいきますのでできませんが、そういった建物の中を歩いていく中で、折々に山のほうも見えてくると。それから先ほどのアニメでもご覧いただきましたけれども、2階から見下ろしますとフォーラム棟の向こう側に海も見えてくる。あるいは、フォーラム棟の中からもですね、県道もすぐそこで、それからフォーラム棟から県道が少し下がって、さらに向こうの飛行場も下がったところにありますので、そういった眺めの中に建物を造るということは、心がけてきてはおります。以上です。

住民) まあいえばどうせ町長にこのことを担当だけでも、まあいえば裏もいっぱい買ったんでしょう。裏の土地もいっぱい買って、あそこを駐車場にする。そうすると思いきったことをやっとれば、あれを壊してしまえば。わざわざあれだけの、下げなければより一層のものが、いい役場ができたんじゃないのかなあというふうな思いをしているから、そういうようなことを町長は何も考えてなかったのかなあ、というふうなことで2点、思いの中で発表した。

町) ありがとうございます。6世帯入っている3階建ての町営住宅なんですけれども、あれの移設といますか、取り壊しの計画も一応検討はしました、町のほうで。というのは、先ほどご説明申し上げましたとおり、空港拡張の関係で県道が移設をされる可能性があるということで、建物をちょっとずらすことで教員住宅3戸と町営住宅の4戸ですかね、の取り壊しをしております。これ以上、町営住宅といますか、公営の住宅を取り壊すということが、地域に与える影響が大きいんじゃないかと。特に小瀬田小学校もありますし、住宅がなければ違う校区に行くと、児童生徒数も減ってしまうというところもありまして、一応そこら辺りは検討したんですが、周りへの影響が大きいだろうということで、今しばらくそのまま、現状のままでいきたいということで計画をしております。

進行) はい。あちらが早かったんでお願いします。次をお願いします。はい。

住民) 屋久島材、黒芯という表現をだいぶんいただいて、確かに屋久島の固有の杉がこれから庁舎の中で、輝くんだなあという思いをいたしておりますが、私が20代後半30代、50数年前、森林組合の理事をしておる時代には、営林署が、いや製材所に杉を持っていくと、黒芯は本土に持って行っても売れない。屋久島の杉は、壁板とか柱とかにすると家の中は暗い印象になってしまって、建築材としては不適だということですね、本土のほうから飢肥杉とか日田杉とかそういうところの苗を導入して、営林署の苗畑でも、よそからの苗を育ててですね、黒芯でない、白っぽい杉を商品として価値あるものにするんだ、ということで奨励した過去があります。それから計算しますと、約50年くらいなっている杉もありますから、そういう杉がこの建物の中に活用されてはいないと思いますけれども、白杉がかなりですね市場にこれから伐採されて出てくる時代があるんだと思います。この建物の材は、聞くところによると営林署、あるいは共用林の材が主であるということですから、おそらく地スギの黒芯材が使われるんだろうと思いますけれども。そういう過去がですね、屋久島の奥のそういう貴重な杉は別にして、地元で板材やとか柱材として本土に売り込むには、黒芯はだめだよ、だめだということを盛んに奨励して、私が先頭に立って植えました。ですから、そういう杉がこれから伐期を迎えて、苦勞するんじゃないかなと思って少し心配しているんです。果たして何パーセントくらい、そういう導入されて育てた山があるものかどうか。そして今、建物に使われようとしている杉は、本当に黒芯の、屋久島本来の地スギが活用されているのかどうか。フォーラムかなんか知らんが、白っぽい丸太とか見ると、これは地スギじゃないようなそういう感じを受けますが、その真相を教えてください。ほかもたくさん言いたいですけど以上です。

進行) はい。真相はどなたがお話ししますか。

町) ありがとうございます。真相はですね、春田のですね、分収造林地を今回伐採しています。国有林地の分収林なんですけど、そこを5.5ヘクタール伐採しております、おっしゃられるように、屋久島は結構、飢肥杉とかそういったものも植林されているという話も伺っております。今回伐採する中にもやはり黒芯だけじゃなくてですね、赤みを帯びたものであったり、ちょっと白っぽい材も実際混ざっております。屋久島の山はそういった様々な色合いのものが、杉が混ざっておりますので、それぞれの良さを生かして、今回取り組んでいるところでございます。今後もやっぱりその施主によっていろいろ好みがあります。それぞれの趣向性がありまして、黒いものもいいという方もいらっしゃいますし、だいたいの方は白い杉のほうがいいという、そういったものがあるんですけど。屋久島の杉といたしましては先ほど説明がありましたように、強度の高さであったり、あとは香り成分の良さとかですね、シロアリに強いとかそういった成分分析も今までやってきましたので、そこを武器にですね今後販売のほうを展開していくように考えております。

住民) オール黒芯じゃないってことね。

町) オール黒芯ではありません。

進行) はい。ではお願いします。

住民) 今日はどうもありがとうございます。平面図のところを見せていただけませんか。私も六十数年、ちょうどこの地域で生活している者なんですけど、いろんな人も言ってますけれど、大変北西の季節風が強い場所なんですよ。いいものを非常にこの造っていただいてありがたいと思います。ただですね、高台でちょうどあそこは峰になって、地域がちょっと高いですので、西側のほうにですね、今、泥をどんどん持ち込んでますます西風が強くなりますので、何とかあの辺にずっと防風林をですね、そういうものはできないものかなあと。まあ敷地内かもうちょっと敷地のところを、こう土手みたいにするかしないかは別としてですね、ちょっと木をですね、ずっと防風林を西側だけでも植えていただければ、かなりこの北西の季節風を止められるじゃないのかと。窓口の後ろの方ですよ、西側はですね。あそこはちょうど泥を今捨ててる所はまともにあたるんですよ、風が。近くに私も住んでいるんですけど、もう冬場はですねものすごい風がくるもんだから、そういうことが出来ないものかなあと。ご相談でございます。

設計) ありがとうございます。(図を示す) この絵って方位が書いてないのが図面としてどうかと思うんですが、すみません。こちらが北になっているところ、これが北東側になります。ここは当初、造成を始める前にはいっぱい木が生えていて、茂みのようなものがずっと並んでいたんですが、ちょっと駐車場の確保だとかその辺でまあ採ってしまいましたので、またこれからここをもう一度整備して直すところを考えていきたいとは思っています。あと植栽については日頃のメンテナンスとかですね、小さなものが折れて飛んだりとかそういったこともございますので、そのあたりの維持管理の方も含めてちょっと今後外構計画の方も、外構の工事は最後になりますので、また建物のできた後でそういったことも対応できると思っておりますので、考えていけるといいかなと思っております。

住民) ありがとうございます。よろしくお願いします。

進行) はい。お願いします。

住民) 今、風の話が出たんですが、雨ですよ。雨も結構降ってますね、その雨対策というか、排水ですよ。それをどう考えているかちょっと教えてください。

進行) はい。じゃあお願いします。

設計) 排水計画というのは地面に落ちた。屋根の。

住民) 雨どいからの雨と。それはどこに流れているのか。

設計) 基本的にはこのエリアの右上が最終の放流先になっています。

設計) 雨水の排水計画という考えでよろしいでしょうか。開発許可の基準としてですね、これは開発申請、許可を取っているんですけども、1時間当たり百三十数ミリですかね。最大の雨を想定して、この建物の周りに全部、側溝が入っております、そこで拾って最終的にはここから出す計画になっております。建物の方は、瓦屋根の先端樋を通りまして、それぞれ相応の雨量に対応したという数を計算してですね、下におろしてその外側の側溝に繋ぐという計画をしております。

住民) 全体のやつがそこに一か所に。そこは結構小さいですね。

設計) この敷地に関しては、こちらで対応してですね、上の駐車場のレベルに関しては、私が聞いているのは、ここを通過して下に行くと。県道に出すという。

住民) 思ったよりも量がものすごくいってる、雨が。それは計算ではできないような雨が降りますから。県道に出すにしても、やっとなら300の側溝でしょう。そんなので…

設計) そういうこともありまして、それぞれですね、地面の下に、今ここを造成しているのをご覧いただいていると思いますが、深く掘っているところがありますよね。それぞれ上の敷地と下の敷地に水をいったん貯める貯留槽的なものをつけるように、条件で開発許可を取っております。

住民) 上の状況は、穴を掘っているのは、ため池だなあというような思いはしてはいましたけれども、下の方はまだ。

設計) 下の方は北側の駐車場のゾーンにですね、同じような機能を持った貯留槽を設ける。そこで一旦蓄えながら、県道に出すという仕組みになってます。

住民) 直角になるのが一番怖いんですよ。斜めにとか何らかの方法、いずれは県道も空港によっていろいろ変わってくるだろうと思いますけれど。

進行) はい。ほか 意見ございませんでしょうか。お願いいたします。はいお願いします。

住民) まず、この庁舎に20億円もかかるってこと自体が、私は非常に問題だなと思っているんですが。それと同時に、維持費ですね、ランニングコスト、さっきあの今既存の庁舎が2千万円かかるっていうふうな、あれがあったと思うんですけども、新しい庁舎になった場合にそのランニングコストの試算というのがされているのかどうか、お伺いします。

進行) はい。よろしいですか。

町) 新しい庁舎ですね、光熱水費、ランニングコストにつきましては約年間9百万円を見込んでいくところですよ。

進行) 年間九百万円の維持費ということですね。よろしいですか。はい。はいどうぞ。

住民) 先ほど黒芯の苗だっていうこと話が出てて、私もやっぱり黒芯はすごく渋くていいなあって話、いろいろから聞いて思ってたんですけど。実は赤も白もあるっていうのを、話を今聞いたんですけど、黒芯をウリに今度ブランド化して、屋久杉を、屋久島の地杉を外に出していくってとらえてたので。黒も赤も白も全てやっぱり屋久島の杉として、ブランド化して外に出すという認識でよろしいのかというのが1点と、どうしても庁舎のこと、さっきも20億という話が出てて、それはもうおそらく変え難い事実なんだろうけど、現在の財政状況も公表されてますよね。公表されている中で、屋久島の財政状況の硬直化という単語と、黄色信号であるという文言が、非常に私の中で気になっている言葉であって、それはやっぱり一般の主婦、財布を預かる、家庭の財布を預かる者、今後やっぱり税金の支出はどうなっていくんだろうか。そこが、ほんとに素晴らしい庁舎の建設の計画に賛同したいところではあるんですけど、なかなか財政のことを考えると、とてもシビアな問題だなと、やっぱり未だに私は感じているんですよ。で、もしできればその安心できる材料、今後の財政シミュレーションをですね、今後10年くらい歳出と歳入をどんなふうに見積もっているのか、財政破綻の危機はありませんよ、という材料を是非投げかけていただきたいんですけども。歳出歳入を各10年後ぐらいまでですね、シミュレーションが実際あるのかどうかと、あるとしたらどんなふうに変動していくのかと、今後介護保険や医療保険などが莫大に規模が膨れ上がると思うんですけど。その辺りをもっと明確にさせていただいて、お願いします。

進行) 1点目が黒芯だけではなく、赤黒。白もある、ではないか。それについて、実際ありますね。黒が全部揃っているわけではないので。それは合わせていく。黒の中に白も入って、赤も混ざって出るとは思います。その辺は、それほど大きな問題ではないと思います。2点目の、財政シミュレーションについてちょっとお話をいただきたいと思いますが、よろしいですか。

町) 財政の話でご質問だったんですが、財政というやっぱり考え方もいろいろあって難しいなど。今言われたご質問の中で、財政の硬直化というお話があったかと思いますが、これは一般的に指標として用いられるのは経常収支比率、というものがあって、町にどれだけ固定的なお金が入ってきて、それがそのうちの程度使われていたのか、逆に 100%から引いたときに残りのパーセンテージが、自由に使えるお金、町がいろんな施策ができるというようなことで意味合いでは用いられるところでもあるんですけど。これについても、話が長くなって恐縮なんですけど、説明するためにはあれなんです。国、県の指導等もありまして、概ね 5 年以上町が財政支出をしているような中身については、臨時的経費か経常的経費かというようなお話になると、経常的経費でみなさいよ、という指導を受けています。で、市町村によっては手を変え、品を変え、言い方悪いですけど、端的に言ったら条例を変えたりとか事業名を変えたりとかいうようなことで、財政の硬直化というのを下げてるようなところもあったりはします。うちのところが、ここ数年なんですけれども、普通交付税、特別交付税の支給される金額によって経常収支比率の増減というのはバラつきがあります。一定化はしてません。いい数値のときもあれば、そうじゃない数値もあります。積立金を大きくした年、年度は経常収支比率は下がったりとかですね、そういったいろいろな要素があるので、正解はこれだ、っていうのはご説明しづらいところでもあります。もう一つ、財政のシミュレーションですか。についてのお話がありましたけれども、これについては昨年ですね、合併の法律、屋久島町は合併の新法と通称言われるようなもので、市町村合併をした町でございます。その町が使える合併推進債というのが当初合併後、10 年だったかと思います。それが法律の延長がございまして、最大 5 年だったかな、延ばせるような制度に変わりました。としたときに、屋久島町も延長はできます。としたときに、町としても合併をして、いろいろな事業も抱えておりますので、合併推進債を 34 までかな、借りれるような形で、その年度の延長をしました。その延長をするためには、合併時、平成 19 年に合併してますから、平成 19 年度以前に新町まちづくり基本計画というのを作ってるんですけれども、それが合併推進債を借りれる年度までだったんですね。だから、今回 34 まで延びたというのであれば、その 34 までの財政シミュレーションは最低作らないといけない必要が生じております。で、これについては、昨年 12 月議会に出しましたので、それまでには県との協議を終える中で作っております。ということで、いいんですかね。金額とかもいるのかな。これは、ちょっと僕も自信はないんですけれども、議会に出したはずなんで・・・

住民) 大丈夫です。細かいところじゃなくて、今後控えている事業もある中で総体的に考えるとどうなんだろうというのは、やっぱり不安な材料だなと。クリーンサポートセンターの話やら何やらという、積み重ねて事業を考えたときに、10 年後財政はどうなっているでしょうね、っていうのが今の質問の、ごめんなさい、本質で。あの、すみません、金額はもう大丈夫です。

進行) はい、ありがとうございます。先ほどの黒芯のこともありましたよね。ちょっと最後に、赤も白も実は同じように硬くて精油があります。同様にですね。黒芯だけではありません。それから、今の財政不安についてですけども、地域循環をして林業振興をしていこうという、この庁舎建設を造ることによって、できるだけやっぱり税金も中に入ってくるように、公共に入ってくるように、そういう意味で非常にその、庁舎自体がシンボルとなって地域循環で財政の方も少しでもよく影響があるようにですね、なっていかなければいけないというふうに私は考えてこのお話はしたつもりです。ただ、それ

がどれだけ形になるか、数字がどうだとか話は非常に難しいですね、こういうのは。ただこのままよそからモノを買って、自分たちで生活をしていくというのは不安だというのは、逆に言えば自分、ここにいる人たちがどれだけ地元で地産地消して産地直送で収入を得ているのかというこまめな活動以外にはですね、財政負担の解消なんていうのはないんだろうと思います。ただ、建物を造っていくことによって確かに不安は出てくるかもしれないけど、無駄な投資もまたしてはいけない、ということで、いろんなことを考えながらやっていくことが必要で、そういう意味では、双方向の意見をいただきながらきちっとやっぱり今後ですね、とらえていかないといけないというのはつくづく感じております。今、そういう意味での動きをしているというふうにお考えいただければありがたいなと思います。

町) ちょっと1点。今後の計画の作り方として、今作ってるやつはですよ、どんどん変わっていくんですけど。今時点で作ってある財政シミュレーションというのは、消費税が例えば31年度だったかな、に10%に上がるような話できてますので、そういったのも県とも協議しながらみってます。もちろん町税というの、歳入ですので、ご家庭もそうだとは思うんですけども、歳入の部分については、このくらいもらえるだろう、入るだろうなというような、ちょっと厳しい見込みでは立ててます。そういう国からの制度とか、そういったのもみってます。歳出においてはご心配されるのは、今までの借金をどうやって払っていくのか、ということも気になさってるんじゃないかなと思うんですけど、借金の返済額というのは、今までの借り入れた額の返済計画がありますので、そういうのももちろん当然反映されてますし、庁舎も含めた今年、来年その後、年々、建設事業というのは町はしていきますので、そういったのも踏まえた計算を立てたものも返済額はこのぐらいで各年度ごとに計算は細かくみて作ってはいますので、そういう作り方をしています。

進行) はい、ありがとうございます。それからですね、クリーンセンターとこの庁舎建設は基本的に関係はありませんが、クリーンセンター、先ほど聞いたときに私、わかりませんでしたけれど、RDFの話ですね。RDF、これは全国的に、熊本でもですね、非常に厳しい状況に至って、これは屋久島だけに限らず全国的な問題で、ある象徴の流れの中でこの施設自体が厳しくなったということ。これは屋久島だけの問題ではない、国との問題があるというふうにご理解をさせていただいた方がいいのかなというふうに思います。もう時間が・・・はい、どうぞ。最後に一つ。お願いいたします。

住民) 午前中の宮之浦での会場でも参加させていただきましたけれども、この会場でも大変いろいろなご意見が出されまして、大変いい参考になりました。又勉強にもなりました。皆さん、御存じのようですね、屋久島町合併して今年で10年になるわけですけど。本来、合併と庁舎問題というのは、セットで考えるべきところだったんでしょうけれども、庁舎、合併ありきで置き去りにされてきたという経緯があったと思います。それながら、今回このようにして非常に具体的に進んでまいりまして、先ほどもありましたけれども、区長からもありましたけれども、造るからにはやっぱり百年の計に立って、後世に遺漏を残さないようなですね、素晴らしいものを造っていただきたいと。立派なものを造っていただきたいなど。別に高額な金を投じて造れという意味じゃありませんけれども、町民がほんとに使いやすい、行きやすい、そういう庁舎にしてほしいなという思いはあります。是非、係の皆さん大変でしょうけれどもがんばっていただきたいと思うんですが。宮之浦会場でちょっと気になったことがあった

んですけども、県道からの交通アクセス、入口なんですけど、これはまだ最終年度ぐらいになってくると思うんですけど、県道からの取付ですね、例えば空港側からまいりますと、今の計画でいきますと、ちょうど勾配的にですね、下り坂になっていくと思うんですけども、こちら辺の交差点処理とかですね、当然県道の拡幅があるでしょうから、そっちの関係で信号機なんかどうなるのかですね、そういったことは当然警察とかこちら辺が入って、協議はされていくんでしょうけれども、そういったのはまだされてないのかどうか、今後していくのかどうかということですね。それと、林業振興策についてだったんですが、今回は地元材を使つての庁舎ということですね、例えば屋久島と言えば屋久杉というのがなんかこう代名詞みたいなとらえかたをされてきたわけですけども、最近、屋久杉の土埋木が大変枯渇をしまして、向こう何年で屋久杉の工芸品はできなくなっていくというようなことも聞かれています。加工組合、加工業者もたくさんいらっしゃるわけですけども、土産品店なんかもそうでしょうけれども。今後はですね、地杉を使った、地杉材での工芸品等の開発というようなことをですね、これらも是非検討していくべきじゃないかと。今ですね、安房の橋口木材さんですか、「夢の架け箸」ですか、割り箸をですね、セットで作って出しているのをちょっと私見たんですが、従来、屋久杉の箸なんかってのはちょっと高いですけど、その地杉を使ったやつですとセットで千円ぐらいで5セットぐらい入ったやつです。そういったのも出回っているんです。ですから、今後は、この庁舎が地杉でできるということで、地元材でできるということで、千載一遇のチャンスといえそうですね、そういった屋久杉に替わる、やっぱり地元の地杉でいろいろ工芸品もできるぞというようなこともですね、どんどんPRして行って、また観光者あたりとも連携しあってそういった林業の振興策を図っていければいいのかなという思いがいたしました。ちょっと感想でしたけど、すみません。

進行) はい、ありがとうございます。林業振興についての感想をいただきまして、まさにそういう展開が必要だろうというふうに思います。県道のアクセスについてのみちょっとご確認しておきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

町) 県道からのアクセスなんですけれども、まずは信号機の設置につきまして、屋久島警察署の方とも協議してまいりました。これは、なかなか信号機を設置するということはいろいろ条件がありまして、今回は信号機の設置ではなくてですね、ちょっと宮之浦側のほうに取り付け道路をずらすことで、今回回避するということが計画しています。もう一つが、ちょうど農道の入口、画面の一番右下なんですけど、ここが農道の縦線の入口なんですけど、こちら空港の滑走路の延長の関係で少しこちらの高さが下がってきます。今、結構高低差があってここが一番高くて両側に下っていくような傾斜になっているんですけど、もう少しこの高さが下がってくると、見通しは随分よくなるというふうに計画しております。

進行) はい、ありがとうございます。お時間が10分ほどオーバーしましたので、これで終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、マイクをお戻しします。

終了